

H. P. R e p o r t

これからのブロードバンド（4）

これからのブロードバンドといいながら多少別の方向にいつているみたいですが、これも1つの方向と思ってください。ではこれまでの放送とブロードバンドによる配信とはどう違うのでしょうか。これまでの放送はどちらかといえば情報を一方的に流すものでした。決まった時間にニュースを流し(ニュース速報はありますが)、決まった時間にドラマを流し、バラエティ番組を流すといったように。情報の受け取り側も決められた時間に流されるものを観るといったものでした(ドラマなどは録画するようなこともできるようにはなりましたが)。確かに放送から情報を得てはいますが、どちらかといえば受動的な情報の受け方でした。それがまず都市周辺地域におけるCATVの登場によって双方向化が可能になり、各家庭のセットトップボックスのスイッチにより放送するセンターに情報を伝えることが出来るようになりました。この時点で番組内容への参加が可能になり、多チャンネルになることによって見る側が見るものを選択できるようになってきました。多チャンネルになったといっても送られてくる情報は時間が決まっているわけですからこれまでの放送と大きくは変わりません。この次に出てくるものがVOD(Video On Demand)と呼ばれるシステムで、ホテルなどの館内放送には既に使われていますが、希望したもの(例えば映画など)を希望することによって自由に見れるもので、情報を出すほうは必要な情報を取り揃えておくことによって、視聴者側の希望に合わせて配信することが出来ます。これらもブロードバンドで行われているものですが、今回話の中心にしようとしたブロードバンドは、インターネットに使用する通信回線としてのものです。

これからのブロードバンドはいろいろな意味でこれまでの放送、通信の概念を変えていくものになります。極端に言えば、インターネットでホームページを利用するその拡張がこれまでの放送の一部にとって替わるものとなり、通信の一部にとって変わるものとなるということです。これまでのホームページにはいろいろな情報があふれ、調べたい内容で検索することによって必要な情報を取り出すことができるようになっていきます。インターネットは国語辞典、百科事典であり、旅の情報誌であり、巨大なショッピングセンターでもあります。本も既に一部ではデータでの配信が始まり、音楽の配信も始まっています。これまでのように店を何件も回って探し回るとい必要はなく、必要に応じて近くの店に配達されたり、自宅へ宅配便で直送されたりできるようになっています。ここまで拡大してきたインターネットがブロードバンドによって高速化することによってこれまで放送で行われてきたことがインターネットでできるようになります。インターネットのホームページを開くことによってこれまでのテレビ放送を見ることが出来るようになるかもしれません(そうなった場合、単にテレビ放送を流すのでは意味がないのですが)。ドラマにしても定期的に内容を変更すればテレビ局からではなく制作会社から配信すれば住むわけですし、自主制作番組を配信することもできるようになります。ニュースは新聞社から文字での情報や音声などでの説明情報が配信されれば十分ですし、必要に応じてブラウザのソフトの設定によって臨時ニュースを出すことも可能となります。情報はそのたびにインターネットに接続するのではなく、ホームサーバを設置することによって必要な情報を自動的に新しくしながらローカルに置いておくこともできるようになります。

ブロードバンドなどによる高速通信ネットワークの構築はこれまでの生活を一変んさせる可能性があるような気がします。(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 11月19日号

特集 「おもちゃなんて」と言わないで

→無線技術からロボットまでの現代のキーワードはエレクトロニクス業界が必死に研究開発を続けヒット商品につなげようとしているものだが、これらのキーワードをすべて手中にしようとしているのが「玩具業界」である。ハイテク玩具はエレクトロニクスメーカーとは違う取り組み方でヒットを飛ばしている。

解説 ソフト無線の進化を阻む3つの課題

→ソフトの入れ替えで無線方式そのものを変えてしまう事ができるソフト無線、法改正などの環境準備は進んでいるが、コンピュータから無線技術のすべてを理解する技術者がいない、商用サービスに必要な技術使用を提示できる企業や団体がいない、さまざまな業種の企業を束ねて1つの方向にまとめ上げるオーガナイザー役がいないなどの課題がある。

○日経エレクトロニクス 12月3日号

特集 光配線との遭遇

→通信は光、配線は電気のこの垣根が崩れようとしている。はるかかなたの海底ケーブルから始まった通信路の光化はルータ/スイッチのところまでになり、プリント基板に光部品が乗りチップ間やボード間を光でつなぐ「光配線」が現実のものとなりつつある。

解説 無線LANとPDAに望みを託す

→今年のCOMDEX Fall 2001はIT不況の突破口を「ユビキタス」に対応する無線LANと携帯電話を取り込み始めたPDAにIT吹きよりの突破口を模索する展示が関心を呼んだ。

○日経パソコン 11月26日号

特集 手作りホームネットワーク

→2台以上パソコンを盛っていたら家庭内LANを構築。家族でインターネットを利用し、プリンタや他のパソコンに接続されたCD-ROMドライブを共有することができる。その構築方法から通信回線の選択、機器の選択まで。

特集 ネット時代の新ルール

→インターネットを利用するにもルールがある。最低限必要な著作権、プライバシーなどについての知識と逮捕事例に学ぶネットでやっていけないこと。

○日経パソコン 12月10日/24日号

特集 2002年のパソコン

→2002年パソコンはどのように進化するか。OS、CPUなどのキーワードごとに来年を予想する。

特集 XP時代のオールドPC強化作戦

→Win98時代に購入したPC。XPに対応させてもうひとがんばりするため、ハードウェア強化のためのパワーアップ基礎知識と強化ポイントの紹介。

○日経バイト 12月号

特集 Windows XPの利点欠点

→発売となったWinXP。その実態はどうか。互換性、ドライバなどの問題から新機能のファイアウォール、無線LANへの対応など利点と欠点を解説。

特集 ねらわれるマイクロソフト

→今年になって話題となった「Sircam」、「CedeRed」、「Nimda」などのウィルス、ワーム。すべてねらわれたのはマイクロソフトのOS。IISやIEなどのセキュリティホールを突くものが多く、シェアの高いマイクロソフトをねらったウィルス、ワームがこれからも出てくる。

○日経オープンシステム 12月号

特集 WWWシステムの“ぜい弱性”を絶つ

→WWWシステムのセキュリティ被害がいつこうに減らない。パッチの適用やログの監視といった対策はわかっているが実行が伴わない。実施は優先順位をつけて実施することによって効率的にセキュリティを向上できる。

○日経ネットビジネス 11月25日号

特集 「個人情報保護法」がネットビジネスを滅ぼす

→「個人情報保護法」が今国会に上程されている。この法案は個人の情報収集や利用方法に枠組みを与えるもので、個人情報の塊といえるネットビジネスを直撃する。手間とコストが大幅アップし、中小のECサイトを中心にネットビジネスが存亡の危機におちいる。

○日経ネットビジネス 12月10日号

特集 中国もネットバブル

→1億3000万台の携帯電話、急拡大するインターネット人口、立ち上がるネット企業など中国はネットバブルになっている。はたして本物か中国ネットビジネスの実像を見る。

○N+I MAGAZINE 12月号

特集 セキュリティ・マネジメント

→セキュリティ・マネジメントは部署、システム単位ではなく企業単位でセキュリティ体制を整えていくことで、世界標準となっている「BRITISH STANDARD 7799」を紐解きながらその手法についてみていく。

特集 10GbitEthernety徹底理解

→2002年にLANは10Gbitの高帯域を達成する。これからの10Gbitを仕様策定に先がけて解説する。

特集 TCP/IPを理解する

→現在のIT技術はネットワークに支えられている。その根幹となるTCP/IPについてその仕組み、その機能を概要から実際までを解説する。

○ASCII 12月号

特集 Windows XPのトラブル解決

→WinXPのカスタマイズについて、いろいろある新機能の設定をどうすれば使いやすくなるか、システム設定でのトラブル対策とネットワーク設定、活用講座。

特集 ブロードバンド最深情報！

→1. 5Mbpsで始まったADSLもヤフーBBの登場によって8Mbpsが広がってきている。導入ガイドと乗り換えの方法などについてと最深・最新ニュースまで。

○DOS/V magazine 12月15日号

特集 CPU&マザーファイナルバトル

→PCの構造が変化しつつある。USBを含むシリアルバスの採用による広帯域幅をキーワードにマザーボードも過渡期にある。最深バスアーキテクチャを採用したマザーボードとPentium4vsAthlonXPのCPU対決、最新メモリ事情まで。

特集 絶対成功！PCパーツ拡張計画

→新製品が出てもなかなかその買い時がつかめないPCパーツ。出たときは思いっきり高いのに気がつくといらい勢いで値が下がってしまうCPUや、ようやく安くなって買いに行こうとすると店頭からなくなってしまいうHDDなど。買い時は難しいが、肝心なのはPCを何に使うか。それぞれのジャンルに分けてその購入方法を紹介。

特集 CD-RWドライブ最終進化形

→4年前に4倍速が主流だったCD-RWドライブが20倍速の書き込みが可能となり読み込みと同程度の速度まで上がっている。しかし、20倍速でそのメディアの回転数は10000rpmを超えその限界が見えてきている。最終形ともいえる状態となったCD-RWの現在の各製品とその性能の紹介。